

「着任に当たったの所信」

東北森林管理局長 小島 孝文



7月10日付けで東北森林管理局長を拝命した小島孝文です。私は、1987年に入庁し

今年で31年目になります。これまで前橋営林局（現関東森林管理局）、九州森林管理局での勤務経験はありますが、当局管内は初めての勤務になります。林野庁在勤中には、東北各県の民有林、国有林に出張する機会もあり、各県の森林・林業関係者の方々と意見交換もしてきており、森林・林業の現状についてはある程度把握していますが、初めての勤務でありますので、早く自分の目で状況を把握して、職責を果たして行きたいと考えています。

今回の機会に着任に当たったの所信を述べさせていただきます。

まず、現在、我が国の森林・林業に関する最大の課題は、戦後造成してきた人工林が利用期に入ってきたことを踏まえ、路網整備や再造林の低コスト化など資源の循環利用を進める基盤整備を図り、それぞれの地域にあった形で林業の

成長産業化を進め、地方創生に貢献していくことです。管内5県にまたがる当局の国有林面積は165万ヘクタールであり、地域の土地面積の31%、森林面積の44%を占めており、東北5県の林業の成長産業化や地方創生を進める上で大きな役割を果たすことが期待されています。

近年、大型木材加工工場の増加や木質バイオマスの燃料利用の需要が高まるなど、これまでの秋田スギや青森ヒバといった高品質材や広葉樹材だけでなく、いわゆるA材からC材まで需要が多様化してきます。こうした状況の変化も踏まえ、既存の製材工場、合板工場等も含め原木の安定供給体制を構築していくことが課題となっています。

また、管内には世界自然遺産の白神山地をはじめ、八甲田山系から蔵王山系に至る奥羽山脈沿いから、月山、朝日・飯豊連峰にかけて、さらには森吉山、烏海山、北上山地周辺にブナ、ミズナラなどの素晴らしい自然植生があり、これらの貴重な自然については保護林等に指定して保全を図るとともに、自然公園等に指定された森林でのレクリエーション利用の場の提供等を通して地域振興に貢献していくことも重要です。

更に、東日本大震災で大きな被害を受

けた海岸防災林の復旧、岩手・宮城内陸地震被害への対応、岩手県の磐井川地区や山形県の銅山川地区における地すべり工事など国土保全のための治山事業を適切に実施する必要もあります。

このように多くの課題がありますが、当局には先輩方が宮々と築き上げてきた伝統と技術があり、青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県の当局と国有林野等所在市町村、森林組合、素材生産業の林業事業者の皆さんと連携を図り、課題にひとつひとつ丁寧に向き合うことで、必ず解決していく方策が見つかると考えています。

我々国有林の職員は、森林の保全から木材生産まで森林・林業に関する専門集団であり、多様化する国有林への役割に応えられるよう人材育成も重要な課題だと考えています。職員の皆さんには、多忙な日常業務だと思いますが、自己研鑽の意識を忘れず、それぞれの能力の向上にも努めて頂きたいと考えています。

国有林は地域に根ざした存在であり、「国民の森林」です。私は、東北森林管理局が地域から信頼と親しみを持たれる組織であるよう、職員とともに全力で取り組んで行きたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。